

# 浦大春秋

## NO. 38

2021 Autumn

URADAI SHUNJU

保護者会レター

浦和大学・浦和大学短期大学部  
第34回

## しらさぎ祭

10月9日(土) 12:00~16:00

- ・模擬店、展示、ステージ発表
- ・特別企画>保護者向け講演会「親世代とは異なる就活ニューノーマル」  
「就活生を持つ親がいま知っておくべきこと」

10月10日(日) 10:00~15:00

- ・模擬店、展示、ステージ発表
- ・オープンキャンパス
- ・第10回読書感想文コンクール表彰式
- ・特別企画>東京2020パラアスリートによる講演会  
「YOUはどうしてトライアスロンを？」

他にも様々なイベントを行います

今年のしらさぎ祭では謎解きゲームを開催  
求む!! 謎解きが得意な学生

学生企画が盛り沢山!  
学生生活をもっと楽しもう!!

\*しらさぎ祭には、感染対策・体調管理を徹底し、参加をしてください。マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒等、感染防止対策にご協力ください。  
\*新型コロナウイルスの感染状況、当日の天候により、縮小・変更・中止となる場合があります。  
\*会場には必ずスクールバス、公共交通機関をご利用ください。  
\*駐車場のご利用はできません(保護者の方もご利用はできません)  
\*当日の学園祭をオンライン配信することを予定しています。

主催：浦和大学・浦和大学短期大学部 学友会 背景画作成：学友会  
問い合わせ：浦和大学・浦和大学短期大学部 H P : <http://www.uradai.ac.jp/>  
TEL: 048-878-3557 (学生・就職課)  
アクセス：JR武蔵野線「東川口駅」よりスクールバス(無料)で  
増玉高速鉄道「増玉駅」よりスクールバス(無料)

Contents

## しらさぎ祭特集号

- キャンプ実習密着取材
- 教育支援サービス“manaba”とは？

- セミの活動がテレビで紹介されました。
- 保護者会だより
- 七ヶ祭・新入生歓迎会
- TOKYO2020体験記
- オープンキャンパス

## 保護者会だより

### 2021年度前期を終えて

今年度は6月の総会から新メンバーで活動が始まりました。7月の理事会は開催できませんでしたが、残念ながら9月に予定されておりました研修旅行と理事会は緊急事態宣言のため中止となりました。コロナ禍のため活動が縮小となる中、しらさぎ祭開催を何としても成功させたいと祈るような思いで活動の準備を進めて参りました。

しらさぎ祭では毎回ワークショップを開催しておりますが、手作りキットの他に今回は感染対策に必要な物品の準備も必要でした。何から始めれば良いのか手探り状態でしたが、保護者会メンバーが個々に自分の知識やアイデアを持ち寄り、感染対策を万全にした会場作りをしてくださいました。久しぶりの学生との交流は心温まるひとときでした。

一つ壁を乗り越えてまた次の希望へ繋げる。昨年度は何も行事ができなかったため、このしらさぎ祭の成功は来年度への希望となりました。

まだまだ先が見えない状況ではありますが、小さな希望をたくさん繋いで、どんな困難なこともみんなで力を合わせて最善を尽くし、学生達の未来を共に考えていける保護者会でありたいと改めて感じました。

これからも浦和大学保護者会の活動へのご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。

(保護者会会長 細沼 和美)

理事会の様子



2021年度新役員



細沼会長



ワークショップ



感染対策・体温計と手指消毒



感染対策・アクリル板



### 編集後記

しらさぎ祭は2019年台風で、2020年コロナ禍で中止となり、2021年は3年ぶりの開催となりました。まだ感染予防が十分に必要なかでの開催となりましたが、子供たちの笑顔で元気をもらえました。今号ではそんな沢山の笑顔を掲載しました。保護者の皆さまにもこの想いが届きましたら幸いです。

(広報部部长 佐藤 英子)

浦大春秋 NO.38 2022年1月発行  
編集・発行 浦和大学保護者会  
【事務局】 〒336-0974  
埼玉県さいたま市緑区大崎3551  
☎048-878-3741(代表)

【制作】望月印刷株式会社

■浦和大学保護者会に対する、ご質問・ご意見・ご感想などございましたら、遠慮なく事務局までお問い合わせください。

2021年  
7月17日(土)

# 2021年度総合福祉学科

## キャンプ実習に密着取材!!

キャンプ実習とは

キャンプ実習とは、「野外活動演習」という授業の中で半年かけて考案準備した様々なプログラムを、3泊4日の「キャンプ実習」の中で実践していくという実習授業のことです。

例年であれば群馬県の赤城山に行き、自分たちでテントを張り、自炊しながらプログラムを行います。自炊しながらプログラムの進行、安全面を最優先し、学校内の施設を使った3日間の通いの実習となりました。今回参加したのは2年生と3年生、それから全行程をサポートする7名の4年生です。



担当教員の片山先生は「できることなら宿泊での実習をさせてあげたかった。でもどのような形であって実施することが何より重要で、今回このような形にはなりませんが実施できて本当によかった。学生たちは仲間と意見を出し合いながら作り



前準備でバーベキューコンロに薪を組んでおき、起こした火をそこに移してお湯を沸かし、それで昼食用の非常食(大学の防災用備蓄品・在庫入替用)を作って食べるまでがミッションです。

この火起こしは想像以上に難しく、学生たちは大苦戦。ようやくできた火種も火口の中でうまく育たず、やっとの思いで作っても何度トライしても消えてしまいます。

みんな全身汗だく、腕や肩はパンパン、火口担当は熱い火種に何度も息を吹きかける間、煙は吸うし耐火手袋をしていてもやっぱり熱い。それでもあきらめることなく声をかけ合い励まし合いながら、時間の限りトライし続けていました。

火切り杵の先に差し込んだ芯(10cmくらいの長さ)に切った紫陽花の枝が削れてすり減り、それ以上使えないくらい短くなっても火は起きません。池田先生は「火がつかないのには必ず理由がある。でもどうやれば上手くいくかをあまり与えずに自分で試してみてください。すぐに出来なくていいのです」とのこと。火を起こせるようになること以外にも、きつと様々な学びがこの時間の中に詰まっているのです。

3班ともが何とか火を起こし昼食を食べ終えたのは、プログラム終了予定時刻を過ぎた後の1時半過ぎ、午後の実習の開始は2時からとなりました。



上げたプログラムを、力を合わせて実行していきます。その一体感や達成感、人と共にあるという喜びを味わうことは、社会で働くこと生きることにはしつかり繋がっていくはず。そういう体験を繰り返しながら、段々とリーダー的立場で大人数をまとめていく力を養って欲しいと思っています。

また、「学校内で行うことの良い点には、宿泊型に比べて学生の安心安全を守れること、学生たちも通い慣れた環境でリラックスして参加できることなどがあります。一方で時間ゆゆるくなりやすい。実際の山では忘れ物があつても取りには戻れませんが、時間に遅ればフォローできる交通機関もあります。真剣さや緊張感にはどうしても差が出てしまいますね。」とおっしゃっていました。

なお、この授業を履修し実習に参加すると「キャンピングストラクター」という資格が取得できるそうです。

本日(キャンプ実習2日目)のプログラム

1限	9:20~10:50 ロープワーク
2限	11:00~12:30 火起こし体験、昼食作り
3限	13:10~14:40 ネイチャーゲーム
4限	14:50~16:20 学生スタッフ交流プログラム
5限	16:30~18:00 学生スタッフ交流プログラム

### ネイチャーゲーム

この日3つ目のプログラムは「ネイチャーゲーム」。課題は、大学の敷地内に落ちている枝や枯葉、木の実などを集めてきて、配られた画用紙の上に各自がオリジナル作品を作ること。平面でも立体でも何でも良いし特定のテーマもない自由度の高い課題で、この日はじめての個人活動です。敷地内の雑木林を散策しながら散策した学生たちは、戻ってくると今度は自分の世界に没頭して作品作りに取り組んでいました。自然と触れ合い対話する、とても大事なブレイクタイムのような時間でもありました。



取材に伺ったのは実習2日目の7月17日(土)、最高気温34度の真夏日。参加者は2年生17名、3年生9名、4年生7名。担当教員は片山先生、中島先生、池田先生の3名で、私達が到着した9時にはすでに実習の準備や、暑さ対策とコロナ対策が入念にされていました。

### ロープワーク

この日のプログラムは「ロープワーク」からスタートしました。担当の中島先生が4つの重要な結び方について順番に説明と実演をし、2年生が自分のロープで教わったばかりの結び方を試していきます。3年生が巡回して2年生を助けています。



ひととおり学んだところで3号館前芝生広場に移動し、3班に分かれて中島先生から出された課題に取り組みことになりました。課題は「用意された5つの道具を使い、今学んだロープワークを駆使して屋根のある雨よけを作る」です。道具はブルーシート、ロープ、ポール、ペグ、ハンマー。注意点は屋根に雨水が貯まらないようにすること。

### 交流プログラム

最後のプログラムは「学生スタッフによる交流プログラム」。3年生のアクティビティ班が考え準備した幾種類ものプログラムを、3号館裏の広い芝生グラウンドにて全員で楽しむ、この日のメインともいえる3時間です。

「まずは声を出さず！」というリーダーの呼びかけに、すぐさま仲間の3年生が呼応し「OK!行こう!」とおっしゃいぞ!!と口々に返すと、また控えめな2年生に「2年も声出せ!」



学生たちが課題に取り組み間、作り方に正解はあるのかと中島先生に尋ねると、「この課題に正解はありません。でも正解はありません。みなで意見を出し合って考えを試したい。」とお答え。好きな者同士で組んだわけではないグループの中で、正解のない問題を短時間で話し合い、意見をまとめて試していくのは高度な課題だと思えますが、学生たちにとってはとても大事な学びであると感じました。



### 火起こし体験、昼食づくり

次は「火起こし体験」。今回は「まがいざり式」という、木と木をこすり合わせた摩擦熱で作った火種を、火口(ほくち。麻ひもをほぐして細かい繊維にしたもの)に移して大きな火にする火起こし方法を学びます。



と3年生が促し、声出し合戦が始まりました。互いの音量はどんどん大きくなっていきます。場が熱気を帯びてくると、そこからプログラムは次々と展開していき、後出しじゃんけん大会、みんなで輪になって踊るダンスタイム、サイレントゲーム、ジェスチャーゲーム、猛獣狩り、自己紹介暗記ゲームと、野外活動は時間いっぱい行われました。思いきり身体を動かして、仲間と笑い合い、心も体も躍動した学生交流プログラムでした。

### 最後に

準備された3日間のプログラムは天気や時間やアクシデントに合わせて柔軟に組み替えられながら実施されており、条件によって対応を変えられるように、想定に幅を持たせて準備されているのもよく考えられているなと思いました。

1か月後、今度は2年生が1年生と実習に挑みます。今日の体験が大いに2年生を助けることでしょうか。今2年生は自分たちのプログラム作りの真只中だそうです。コロナ禍では思うように活動も出来ず苦労も多しだと思いますが、そういうこともこれからの社会ではきつと経験になるはず。これらの経験を生かして、8月も安全で楽しく充実した実習になるよう、私たち親も応援しながら見守っていきたく思います。

(広報部 風間千晶)  
(企画部 小野田えり子、眞田洋子)

# manaba (マナバ)とは、 何のことでしょうか?



manaba (マナバ) はクラウド型の教育支援サービスのことで、  
 本学では、昨年6月にmanabaを導入しました。新型コロナウイルス感染症防止対策の一環としてオンライン授業を実施しましたが、manabaを導入することにより学生と教員の支援に繋がると考え、導入時期を早めました。manabaでは、ネットワーク上でコース(大学においては授業科目を指す)を管理・運営を行うことが出来ます。

お知らせや課題提出などの機能を使って授業をすすめるほか、学生と教員で掲示板を使って双方向のやりとりを行うことができます。

学生に対して、課題管理や情報発信機能により、授業の事前・事後の学修支援や授業中の学修も最大限に支援を行っています。

※1 クラウド(クラウド・コンピューティング)型とは、インターネットなどのネットワークを経由して、外部組織が保有する情報システムから各種の情報処理サービスを受ける方法

## manabaレポート提出画面



## manabaの 主な機能

- コースニュース**  
お知らせを配信する機能。授業前に準備して欲しいことなど教員から連絡ができる。
- コースコンテンツ**  
授業資料の配信機能。文書だけでなく、動画も配信できる。事前に見ておいて欲しい資料や欠席者への資料配布などが可能。
- 小テスト**  
オンラインでテストが可能。学生が回答し、教員が採点した後に結果も通知される。
- レポート**  
レポートの出題や回答の回収を行う機能。学生が課題内容を確認しレポートを提出すると、設定により、個別に添削指導したり、学生間でお互いのレポートについてコメントし合うこともできる。
- プロジェクト**  
学生をチーム分けしてグループごとに課題を与える機能。協働学習やPBL(Project Based Learning)等をサポート。

2021年度

## 七夕祭・ 新入生歓迎会 開催レポート



毎年4月に行われる新入生歓迎会は、感染症拡大防止のため今年も中止となりました。学生の活動が制限される中、学生生活を少しでも楽しく過ごしてもらおうと、学生が組織する学生会主催、学生・就職課協力による「七夕祭・新入生歓迎会」が、7月7、8、9日の3日間(学生食堂)にて開催されました。

この3日間は特別メニュー「七夕ランチ」の試食があり、お昼の時間になる前から、引換券をもとめて多くの学生が食堂前に集まっていました。学友会の皆さんは受付や引換券の引き渡しなどを一生懸命行っていました。

感染症拡大防止のため、すべて正面向きの席となっており、友人とは横に並んで、おいしいランチを食べてゆっくり昼休憩を過ごしていました。

満席に近い状態となることもあり、担当の方がソーシャルディスタンスの協力をお願いする場面もありました。



また、七夕にちなんで、夏の星座に関する展示や、学生や教職員の皆さんに願いごとを記入してもらった短冊が、食堂内のポスターに笹飾りのように貼ってあり、「家族が健康に過ごせますように」「安心して出かけられる世の中になりますように」「教員採用試験に全員合格しますように」など、切実な願いが託されていました。

お昼の時間限定の短い時間の催しでしたが、学生さんが一堂に会することが少ない中、七夕ランチの試食、短冊への願いごとの記入、クラブ・サークル紹介と学生が楽しめるイベントとなったと思います。

感染症の収束は未定ですが、学生生活は続きます。今回のイベントを企画した学友会では、今後も学生が楽しめる企画を開催できるように考えていきたいとのことでした。

(浦和大学保護者会事務局)

新入生歓迎会とあるように、会場内では新入生向けにクラブ・サークルの紹介動画が流れ、学生は興味

## 東京2020大会 に参加してきました!!



総合福祉学科  
教授 片山 昭義 先生

東京2020大会が終わった今思うことは、最悪の状況でありながら国民からも外国の方々からも、そしてアスリートからも一定の高評価をいただいたことは、日本ならではの「おもてなし」の心が発揮された結果であろうと思います。そして、仮の話ではありますがコロナ禍でなければどんなに素晴らしい大会になっただろうと少し残念な気持ちです。私としてはこの貴重な経験を、大学での教育活動に繋げていきたいと強く思っております。

2021年7月、1年の延期を経て東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)が開催されました。コロナ禍で行われたこの大会は、初めからエンブレムの盗作疑惑や組織委員会会長の女性蔑視発言、開会直前に演出スタッフの不祥事など混乱を極めた大会であり、開催に際してこれだけ国民から「NO」を突き付けられた大会はこれまで無かったのではないのでしょうか。

このような状況であっても強行される東京2020大会とはどのようなものなのか、興味半分、研究対象としての魅力半分の気持ちで大会の公式ボランティアとして参加しました。

私の担当は、各国の大会関係者の移動をサポートする役割、具体的には大会車両の運転手となり選手村、競技会場、ホテル、空港など要望のあった場所にお連れすることです。外国人相手であることや慣れない都内の運転に不安はありましたが、それ以上にお客様との交流の機会は楽しい経験でした。



そして興味の対象はコロナ禍で行われる大会の舞台裏です。報道ではかなりの混乱ぶりが報じられていましたが、裏側はやはりバタバタでした。事前に準備されたシステムが使えなかったこと、大会規模の縮小にも関わらずボランティアが余剰で待機時間が異常に長かったこと、無観客開催など急な方針転換により事前に準備したマニュアルや備品が無駄になってしまったことなど、現場で担当していた専従スタッフの方々のご苦労は相当なものであったと推察されます。

# ゼミの活動がテレビで紹介されました。

— テレ玉(テレビ埼玉)「マチコミ」に出演!! —

総合福祉学科 准教授 鈴木 史良 先生



集合写真

2021年6月15日(火)、テレ玉(テレビ埼玉)の情報番組でゼミの活動を紹介していただきました。放送2週間前に「生放送で10分間」という難易度の高い課題をいただき、ゼミ4年生の6人(敬称略:青戸 励、石川 将希、加藤 亮哉、河尻 大、佐々木 亮弥、森 拓海)と共に内容を企画、それぞれの卒業論文のテーマと将来の夢などの自己紹介、研究発表、トリックアートの紹介という内容になりました。

トリックアートは絵画部の部員が3人いるため、学園祭のために企画したものを再現するというものです(台風とコロナの影響で学園祭は2年連続不開催)。ゼミ生全員で製作した大きなトリックアートで、何と廊下に大きな穴を開けてしまいました。直に見ると平面的な模様ですが、カメラを通して見ると見事な大穴に見えるという、まさにトリックです。ここまで精巧に仕上げるには手間隙のかかる作業です。授業終了後に少しずつ描いていきました。材料は白と黒の絵の具とペンキ、鉛筆のみで、構図や濃淡が命です。最後は指の腹を使ってぼかすという作業にも丹念に取り組んでいました。放送前日の夕方、



鈴木 史良 先生

制作風景

予想以上にハイクオリティな完成となり、学内から歓声が上がりました。もちろん、本番当日の生放送も大成功! ゼミ2年生の小山 瑠妃さんが大穴の上を落ちそうになりながら渡るという演出で盛り上げてくれました。

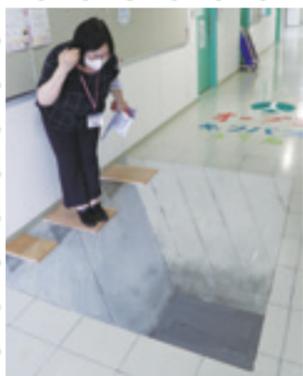
今回、全員でひとつのものを作り上げるという作業や、本番に緊張しながらも自己紹介や研究発表を立派に行ったこと、またテレビ局の番組製作の緻密さを垣間見られたこと等は、学生たちにとって大変良い学びの機会になったことと思います。特に4年生は社会に羽ばたく前の貴重な経験です。大学の広報活動の一端を担えたことを誇りに感じるとともに、学生時代の楽しい思い出の1ページになればと思います。



撮影スタッフと



▲上記QRコードから放送内容を動画でご覧いただけます。前半は大学の小学校模擬教室、後半7分ごろからトリックアートです。



1号館の3階の廊下を通るとその先に巨大な穴が出現!!  
恐る恐る通るとナント!!  
トリックアートでした。  
絵画部や有志の方々が制作し、6月15日(火)にテレ玉(テレビ埼玉)で紹介されたそうです。  
本当にリアルに描かれていたのでビックリしました。  
(企画部 小野田 えり子)

## 廊下を開いた大穴!! — OPEN CAMPUS REPORT



小学校模擬授業での学科説明



学生スタッフ

## こども学部 会場内の様子



伊深 祥子 先生

参加した高校生と保護者で2人1組になって1冊の絵本を読み、お互いが絵本の良いと思ったところを紹介するものでした。  
皆さん、とても楽しんでました。  
(企画部 小野田 えり子)

## 学部 プログラム 「絵本を楽しもう」 伊深 祥子 先生



## こども学部 — OPEN CAMPUS REPORT

参加した高校生と保護者で2人1組になって1冊の絵本を読み、お互いが絵本の良いと思ったところを紹介するものでした。  
皆さん、とても楽しんでました。  
(企画部 小野田 えり子)



藤島 先生

藤島先生による模擬授業「君だけのオリジナル旅行を企画してみよう」では、「浦大トラベル(UTB)」という架空の旅行会社の担当となって旅の見積書を作成するという観光実務演習の授業体験が行われました。とてもユニークでワクワクする授業内容です。お客様のニーズに合わせてプランを作るという作業は、考えなければならぬことがとても多く、仕事内容を知るにもリアルで、想像をかき立てられ、大学での学びや就労への期待を高めるのにも適した題材だと思いました。  
(広報部 風間 千晶)

## 模擬授業 「君だけのオリジナル旅行を企画してみよう」 藤島 喜代仁 先生



たいか、ここでは何が出来るのかをより明確にイメージできるように説明されていきました。1年目から着実に力を付けていける、そして4年間の学びの積み重ねが社会に出た時に確実に武器になる、そんな頼もしさを感じました。

現代社会学科長の竹村先生による学科説明では、現代社会学科に入学したらどんな教育を受けられるかの説明がパワーポイントを使って行われました。特に専門フィールドを「観光・文化」「メディア」「社会・経営」と3つに絞り、自分は何をやり



竹村 先生

## 現代社会学科

実際の現場で、介護の取組を大勢で共有するためにはどうしたらいいかを考えて思いついた「介護自慢大会」の話、それを家族介護の中で実現するにはと考えて生まれた「介護いいこと日記」の話を中心に、福祉の現場に出たら必ず直面する問題について、みんな考えて、思いついたことがあれば形にしていく仕事の楽しさを語られました。



粟延 先生

模擬授業を担当されたのは、勉強(既存の知識を学ぶ)は苦手だけれど研究(新しい知見を創る)は好きとおっしゃる粟延先生。授業の導入では、答えの出ていない問題を扱うことのできる大学の学びの面白さについて語られました。この日のテーマ「笑顔で介護したい!介護自慢大会」の授業へ進むと、先生ご自身が

## 模擬授業 「笑顔で介護したい!介護自慢大会」 粟延 孟 先生



学生が知りたいであろうこと、例えば取得できる資格についてなどを7つの項目にまとめた学科説明がありました。リフレットの最後には、「学生の成長を一番近くで支えたいと考えています。教員一同」とのメッセージがあり、とても心強く感じました。



片山 先生・社会学部

## 社会学部 — OPEN CAMPUS REPORT

# OPEN CAMPUS 2021

2021年6月19日(土)

WELCOME  
URAWADAIGAKU

## オープンキャンパスレポート

この日は今年度最初の対面でのオープンキャンパス。万端の準備をして来場者を迎え入れる各学科の様子を取材してきました。

# 2021年度しらさぎ祭 開催!!

2021年10月9日 (土)、10日(日)

今年度は3年ぶりにしらさぎ祭が開催されました。一昨年は台風で、昨年はコロナ禍で2年連続開催されず、今年も開催できるかどうかと心配しておりました。しかし、主催の学生団体「学友会」や大学の「学生・就職課」のしらさぎ祭関係の皆さまのおかげで、今年は開催する事が可能となりました。

参加者は学生とその身内に絞り、密にならないよう消毒や検温を徹底しました。飲食の売店や野外ステージを無くし、飲食は食堂内のみと、規模を縮小しての開催でした。そんな中、食堂では《焼きそばパン、コロッケパン、メンチパン、白身魚パ

ン、各種ジュース》を無料提供して下さり、心がホッと温まる場面もありました。

また、今回は天気にも応援され、晴天が祭りを一層盛り上げてくれました。

最後に最も重要な事は、今年の開催は来年以降のしらさぎ祭に繋げる大事な橋渡しとなった事です。今年の開催関係者の皆さまに感謝の思いと、来年以降のしらさぎ祭の開催を大いに願っております。

(広報部 有村 恵美子)



▲上記QRコードからしらさぎ祭の様子を動画でご覧いただけます。



スノードーム作りませんか～

楽しんでね!

スーパーボール  
いくつすぐえる?

しっかりねらっていきましょう

来て来て!

何本はいるかな?



2021年10月9日(土)、10日(日)

# 保護者会 ワークショップ

保護者会では、コロナ禍の影響でし  
らさぎ祭が開催されるかはっきりしな  
いでワークショップの準備を進めて  
参りました。昨年度は中止となりまし  
たが、オープンキャンパスでキットを  
配布し好評だったことから、開催され  
てもされなくても楽しくやっていたこ  
この思いでした。今回はキット数を大  
幅に増やし、新作を加え、感染対策もし  
かり準備して臨みました。学生に戻  
った感覚で楽しんで準備して当日を迎  
えました。期間中延べ137名の方に参  
加していただきました。一番人気は毎  
回恒例のフラワーソープでした。それ  
ぞれ素敵な出来栄でした。学生はみ  
んな明るく、こちらも楽しい時間を過  
ごすことが出来ました。  
次回はいろいろな年代の方が関われ  
る浦和大学の本来のしらさぎ祭が行わ  
れることを願っております。  
保護者会では皆様を楽しめるワーク  
ショップをまた行います。  
またみんなで楽しみましょう。

(企画部部长 宮下ゆかり)



## しらさぎ祭 ワークショップに参加した 保護者会役員の 感想

保護者会の皆さんや学生  
さん達とたくさん交流がも  
てとても楽しい時間を過ご  
することができました。ありが  
とございました。(後藤)

コロナ禍での開催で準備も大  
変でしたが、たくさんの来場者  
や保護者会メンバーと楽しい時間  
を過ごすことができました。(真田)

初めてのしらさぎ祭、コロナ  
禍の中でどのぐらいの来場者  
なのか不安でした。でも2日  
間共たくさんの来場者が、い  
ろいろなキットを選び製作し喜  
んで頂いた事が嬉しかったです。  
来年のしらさぎ祭も楽しみ  
です。(小野田)

# 笑顔の しらさぎ祭 参加レポート

2021年10月9日(土)



入学から2年目にして初めて参加した  
しらさぎ祭。  
コロナ禍の様々な制約がある中、学生の  
みなさんは学園祭をどのように準備し、開  
催しているのだろうか...  
心配と期待と不安を抱えながら、スクー  
ルバスで学校に向かいました。  
スクールバスを降りた5号館1階のエ  
ントランス・ホールでは、しらさぎ祭への  
参加者の受付を行っていました。検温と  
手指の消毒、マスク着用チェックを経て、  
ぐるりとあたりを見回せば、学生たちの笑  
顔と笑顔と笑顔。受付を担当している学  
生も笑顔、ホールで「メルカート」(緑日  
やフリーマーケット)の模擬店を開いてい  
る学生も笑顔。笑顔がいっぱい。ほっとし  
て嬉しくなりました。  
5号館の階段を上ってからは、4号館、  
3号館と、学生たちのアイデアあふれるワー  
クショップ巡り。そこにもここにもやっ  
ぱり笑顔と笑顔と笑顔！誘ってくれる  
笑顔が嬉しくて、行った先々でついつい遊  
ばせてもらうことになり、お腹を空かせて  
3号館1階の学食にたどり着きました。

学食のある多目的  
ホールでは You  
Tube の実況生中  
継スタジオがセット  
されていました。素  
敵な笑顔のキャス  
ターとレポーターが、  
学内の笑顔を生中継  
中。セットの向こう  
の芝生でも、笑顔の  
学生が笑顔でワーク  
ショップの準備中。

3年ぶりのしらさぎ  
祭をなんとか成  
功させようと、学友会  
や学生・就職課、参  
加学生達の努力や  
工夫には頭が下が  
りました。来年に希  
望が湧きました。(細沼)

## しらさぎ祭に 参加した 保護者会役員の 感想

コロナ禍での準  
備・感染対策に気を  
配りながらも、楽し  
うに頑張っていた学  
生達の笑顔がまぶし  
かったです。参加  
来て幸せでした。(有村ま)



そうした光景を見ながら、笑顔の行列に並  
んで手にした学食のラーメンをおいしく  
いただきました！  
(広報部 畠山憲司)

手作りの輪投げや射的が楽しく何回もや  
りました。障害者スポーツを体験できたのも  
りです。障害者スポーツも見応えがあり、  
浦大ならではの！トリックアートも見応えが  
あります。体育館でフリースローも面白  
かったです。保護者向け就活講演会も行われ、今のうち  
に聞けて良かったです。(風間)